

5. 大学生版 ワーク・ライフ・バランス憲章

～大学生の宣言と社会への提言～

激しく変化する社会の中で、自分らしい生き方をするためには、仕事と仕事以外のやりたいことの調和（ワーク・ライフ・バランス（以下WLB））について主体的に考えることが必要である。そのためには、結婚や出産、転職、介護などのライフイベントに直面した時に初めて考えるのではなく、大学生の段階からキャリアについての見通し、すなわちキャリアビジョンを描くことが重要である。

しかし、私たちが大学生を対象に行ったアンケート調査によると、約7割の大学生がWLBの内容を知らないと回答している。また、新卒者の就職難を背景に、多くの大学生は就職活動という目の前の目標のみに集中しており、長期的なキャリアビジョンを描くことができない現状にある。

以上の現状認識から、政府が2007年に策定した「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」を大学生の視点から捉え直し、『大学生版 ワーク・ライフ・バランス憲章』を作成し、大学生の立場からの宣言と社会への提言をまとめた。

私たちが10年後、様々なライフイベントが起こる30歳前後にさしかかるときに、多様な選択が可能な社会、すなわち「WLB社会」が実現していることを強く期待する。

この宣言は以下の構成になっている。

PART 1 : 2組の夫婦のキャリアの軌跡をたどる

現在32歳の「ワーク・ライフ・バランス夫婦」と「ワーク・ライフ・アンバランス夫婦」が登場する。それぞれの夫婦が、大学生から現在に至るまでの軌跡をたどる。

PART 2 : 大学生の宣言と社会への提言

2組の夫婦の比較を通して、10年後の日本がWLBの実現した社会に近づくために、私たち大学生が、そして私たちが将来社会人になったときにやるべきことの宣言を行う。さらに社会に求めることも提言する。

なお、WLBの実現に取り組むことの意義については、個人の視点、企業の視点から次のようにとらえている。

個人の視点…仕事と仕事以外でやりたいことの調和を図ることができ、自分らしい人生を描き、心身ともに健康な状態を維持できること。

企業の視点…従業員に質のいい仕事を効率的にしてもらい、多様な人材を生かすことにより、企業の成長・発展につなげること。

2010年11月20日

法政大学キャリアデザイン学部 武石恵美子研究室 3年生一同

岩瀬悠希 海老澤梨奈 金聖裕 小松洋介 柴田貴実 鈴木麻子 竹島彩
田澤沙織 友廣礼子 中原香苗 野田奈央 久松勇士 山川友美 吉井恵楠

【PART1】現在 32 歳の 2 組の夫婦。それぞれの大学時代から現在までの軌跡をたどる。

ワーク・ライフ・アンバランス夫婦

- (男) 現在、国内外で積極的に事業を展開する中堅商社に勤める 32 歳のサラリーマン。
膨大な仕事だけをこなす毎日。仕事にやりがいを感じてはいるものの、このまま仕事だけの人生が続くことに疑問を感じる今日この頃。座右の銘は「明日は明日の風が吹く」
- (女) 専業主婦、32 歳で 1 児の母。大学卒業後専門職として働いていたが、出産を期に退社。子育て、家事に奮闘中。夫は家事も育児も私に任せきりで仕事ばかり。私も外でやりがいのある仕事を続けたかった。もっと未来を見据えておけば…。欲しいものは「人生やりなおし機」



(男)

ライフイベント



(女)

将来の目標、やりたいことは特に考えたことはない。周囲の流れに任せて就職活動。	大学生	結婚、出産などのライフイベントを考えず、就職することを重視。専門のマーケティングを生かせる企業から内定がでて、これで明るい将来！のはずが…。
残業や休日出勤といった長時間労働があたりまえの職場。周りも忙しく、上司が遅くまで残っているのが帰れない日々。有給休暇も取れない…。	入社	専門職として就職したが、成果主義が厳しく、職場の雰囲気もギスギスしている。先輩から仕事を教えてもらえないし…。せつかくの専門職なのに、ノルマに追われスキルアップもできない。
結婚をしたが、相変わらずの長時間労働に、国内外の出張も増え、仕事の都合上夫婦の時間をつくることは困難に。家事は妻に任せきり。	結婚	仕事を継続することに不安を感じたが、やりたかったマーケティングを生かせる職場に未練があり、継続することに。しかし、体力的に家事との両立に苦勞。
仕事に打ち込み営業主任に昇進。大きな仕事を任されるが、同時に長時間労働にさらに拍車がかかる。忙しくて妻の出産に立ち会うことも叶わず。	昇進	出産・育児と仕事の両立は不可能と考え、退職を決意。夫の家事や育児への協力はまったく期待できないので、妊娠中から実家で生活をして、里帰り出産。
仕事が忙しく育児参加は皆無に等しい。疲れて家に帰っても、妻は仕事に理解を示してくれない。子どもとの間にも距離感が生まれ、家より会社にいる方が落ち着く日々。	育児 (2010 年) (32 歳)	育児に専念するが、夫の助けもなく家事との両立に悪戦苦闘。育児ノイローゼに近い状態になり最近近所のママ友との付き合いも苦痛に感じる。育児の苦勞を全く理解してくれない夫への不満から、夫婦間に溝も。

ワーク・ライフ・バランス夫婦

(男) 中堅 IT 企業に勤める 32 歳の会社員。仕事への姿勢、WLB 推進活動が評価され、WLB 推進室マネージャーのポストで活躍中。2 人の子宝にも恵まれ、公私ともに充実。学生の時に思い描いていた幸せの形が今ここに。プチ自慢は入社 5 年目で「社長賞」を受賞したこと。

(女) 中堅医薬メーカーに勤める 32 歳。仕事もバリバリこなすが優しいママとしての一面も。会社も夫も理解があり本当にありがたい。私の眼に狂いはなかった。特技は「切り替え」



(男)

ライフイベント



(女)

<p>学業、アルバイト、趣味のバランスのとれた学生生活。</p> <p>バイト先の店長が、週に 2 日定時退社をして保育園に子どもを迎えに行く姿を見て、WLB について知る。</p>	大学生	<p>将来のキャリアビジョン、目標を持った学生生活。薬剤師の資格を取る。</p> <p>薬学の専門を生かし中堅医薬メーカーの技術職に就くと共に、将来は結婚して温かい家庭も築いていきたいと考える。</p>
<p>中堅 IT 企業に入社。仕事にバリバリ励み、成果をあげ、同僚、上司からの信頼を得る。一方で、アルバイトの時の店長を思い出すと、自分や同僚の仕事漬けの日々に疑問を感じることも。</p>	入社	<p>中堅ながら WLB の取り組みに積極的な会社に入社。</p> <p>仕事だけの生活ではなく、休日を利用し、新たな資格を取るなどキャリアアップを実感している。</p>
<p>妻も仕事を継続するため、家事は分担制。お互いを理解した結婚生活。</p> <p>会社の提案制度を利用し、仕事の仲間たちと勤め先に対して WLB 推進への働きかけを行う。</p>	結婚	<p>自分の生き方を理解してくれる男性と結婚。</p> <p>仕事を継続し、家事は夫と分担制。休日は夫婦で旅行やスポーツをしてリフレッシュ。その分仕事にも力が入る。</p>
<p>社長直轄の組織である WLB 推進室の発足に伴い、マネージャーとしてのポストを得る。</p> <p>社風の改善、WLB 普及へ積極的に取り組む。</p>	昇進	出産
<p>自らがモデルとなる意味も込め、社内で初めて男性で育児休暇を取得し、子育てなどの家庭生活に積極的に参加。</p> <p>自らがいきいきと働き、同僚や後輩にも育児の効用を説明する。</p>	育児 (2010 年) (32 歳)	<p>職場へ復帰し、短時間勤務の制度を利用しながら、育児と仕事を両立。</p> <p>夫と協力し合い、充実した日々を送る。</p> <p>育児と仕事の両立への自信をもち、第二子妊娠！</p>

【PART2】多くの学生が PART1 の「ワーク・ライフ・バランス夫婦」のような生活を理想としている。

しかし、実際は仕事中心の生活になると考える学生が 4 割もいる。この 2 組の夫婦の比較をもとに、私たち大学生が、そして私たちが将来社会人になってからやるべきことを宣言し、社会に対して提言を行う。

宣言 1 大学生がやるべきこと

—主体的にキャリアビジョンを描ける個人になる—

そのために、

- 様々なことに積極的に挑戦する。
- 人と関わり、多様な考えから刺激を受ける。
- 「個人にとっての WLB」を正しく理解する。
- 社会に関心を持ち、社会の仕組みや変化を知り、視野を広げる。

これらによって、自分の価値観や考え方を知り、ライフイベントを意識した自分らしい生き方を描くことができる。

また、就職活動にあたっては、キャリアビジョンを持って主体的に行動することで、将来の WLB の実現につながる。

宣言 2 大学生が将来、社会人になってからやるべきこと

—キャリアビジョンを描きながら行動する!「やるときはやる」—

そのために、

- 多様な価値観を理解し、互いに支援しあえる関係を築く。
- しっかり働いて信頼を得ることにより、他人から認められる自分になる。
- 「企業が WLB の実現に取り組む意義」を正しく理解し、行動する。
- いきいきとした人生を送るために、周りに働きかける。
- WLB 社会を実現するために、自らがキャリアモデルとなる。

これらをふまえて行動していくことで、個人が大学生の時に描いていたキャリアビジョンを実現できる。

また、一度決めたキャリアビジョンを変更しようとするときにも、視野を広く持ちながら柔軟に対応し、行動に移すことができる。

提言 大学生が社会に求めること

—個人の働き方を理解し、支援する—

そのために、

- 社会全体が、「個人にとっての WLB・企業が WLB の実現に取り組む意義」を正しく理解する。
- 個人がキャリアビジョンを描き、行動していくことを推進する。
- 個人のニーズや状況によって働き方を変えることができる環境を作る。

これらのことを行うことで、個人が主体的にキャリアビジョンを描くことができ、その実現に向けて積極的に行動できるようになる。その結果、WLB が実現し、いきいきと働くことのできる社会となる。

フォーラム開催後、憲章を内閣府に提出しました。

キャリアデザイン学部の武石恵美子教授ゼミの3年生が、11月30日(火)、千代田区内の内閣府を訪問。岡崎少子化担当大臣(当時)に「大学生版 ワーク・ライフ・バランス憲章」を手渡しました。

「大学生版 ワーク・ライフ・バランス憲章」は、武石ゼミの3年生14人が、政府策定の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」を大学生の視点から捉え直し作成した社会への提言です。これからの働き方について学ぶ学生が、社会全体でワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みの必要性が求められていることに問題意識をもち、自分たちの10年後にワーク・ライフ・バランス社会が実現しているためには、自分たちが主体的にこの問題に関わることが重要であると考え、11月20日に市ヶ谷キャンパスで子育て応援とうきょう会議とキャリアデザイン学部が共催したフォーラムで発表しました。

「大学生版 ワーク・ライフ・バランス憲章」

宣言1 大学生がやるべきこと

—主体的にキャリアビジョンを描ける個人になる—

宣言2 大学生が将来、社会人になってからやるべきこと

—キャリアビジョンを描きながら行動する! 「やるときはやる」—

提言 大学生が社会に求めること

—個人の働き方を理解し、支援する—

憲章策定にあたっては約460人の大学生へのアンケート調査も行い、自らの10年後のキャリアプラン、ライフプランを意識しながら作成した憲章は、目前の就職活動に集中する学生にも、長期的なキャリアやライフビジョンを描く重要性を訴える内容です。社会全体でワーク・ライフ・バランスを強く意識し、育児など家庭生活のニーズによって柔軟に働き方を変え、仕事と生活の両立ができる環境づくりなども求めています。

同日は、ゼミ生を代表して、竹島彩さんと金聖裕さんが、岡崎大臣に憲章を手渡しました。その後の懇談では、日ごろの学びや直面している就職活動の体験を交えながら、岡崎大臣に学生の率直かつ生の声を伝えました。岡崎大臣からも「男性も女性も生きやすく働きやすい社会を実現するために、ともに働きかけていきましょう」と温かいエールをいただきました。

(法政大学HPより転載)

